

<フィリピン事業> 「活動の過程を大切にすることで、子どもたちの成長を促進する」



ICAN フィリピン事務所
Edgar Gulla
～プロフィール～
フィリピンの他 NGO
で路上の子どもの
デイケア施設担当
を経て、2016年9月
より現職。

アイキャンでは、同じ境遇を経験した仲間同士が互いに支え合いながら、自分自身の成長も促す「ピア教育」（ピアは仲間という意味）を推進しています。特に、以前路上で生活していた青少年による、現在路上で生活している子どもに対するピア教育を継続的に実施しています。フィリピンでは、新型コロナウイルスの感染急増の影響のため、マニラ首都圏全域で18歳未満の子どもの外出が禁止となってしまう、しばらくの間、ピア教育を実施することができていませんでしたが、今回初めての試みとして、オンラインを通じたピア教育を実施しました。

マニラ市ブルーメントリット地区と、アイキャン「子どもの家」を中継で繋ぎ、「子どもの家」の子どもが、子どもの10の権利について説明しました。インターネット環境が悪く、相手の声が聞こえず何度か聞き返す場面や、双方が同時に話してしまう等、オンラインならではの困難もありました。しかし、ピア教育を実施した経験を持つ「子どもの家」のお兄さんが、質問を投げかけたり、補足説明をする等、コミュニケーションが円滑に進むサポートをしてくれたおかげで、無事終わることができました。参加者からは、「直接会えなくて残念だったけど、交流できて楽しかった」「僕たちには自分の意見を言う権利があるって初めて知った」等の感想が聞かれました。

実は、今回のピア教育を実施する前、「子どもの家」の子どもたちは、オンライン上で分かりやすく伝えるための話し合いに、多くの時間を費やしました。子どもたちから、「ただ話しているだけだと退屈だから、絵や写真を使ってはどうか」という提案がされ、視覚教材を作成することになりました。「この絵は小さすぎて画面上だと見えないかも」「この権利は絵でどう表そう」と、たくさん試行錯誤をしました。その過程で、「路上の子どもは、これらの権利が守られていない。守られないといけない」という声も聞かれ、子どもの権利意識の向上にも繋がりました。

また、活動後には、「ブルーメントリットの友達が、僕たちの質問にたくさん答えてくれた。教材を一生懸命作って良かった。誰かの役に立てて嬉しい」と語る子どももあり、誰かの役に立ち、感謝されるという実感を持つことができました。

オンラインのピア教育は初の試みで、難しいこともありました。しかし、困難であるからこそ、今回のように事前準備に多くの時間を費やし、活動までの過程を丁寧に行うことで、ピア教育を受ける側だけでなく、実施する側の成長や自信に繋がると思います。新型コロナウイルス感染の影響で、対面式のピア教育の実施は当面難しいかもしれませんが、私たちは絶えず創意工夫をして、子ども達の学ぶ機会を保障していきます。皆さまのお力添えも、どうぞよろしくお願い致します。



フィリピン事業

9月/マニラ近郊（フィリピン）

2回目となるコミュニティパントリーを実施



コロナ禍で生活が困窮しているトンド地区、及びエスコスタ地区においてコミュニティパントリーを実施し、計160世帯が食料を確保することができました。トンド地区に住むエドナさんは「夫はコロナによって職を失いました。毎日の食事の確保に途方に暮れ、親戚や近所の人から恵んでもらうことも多かったのですが、本当に助かります」と話してくれました。

ボランティア・寄付推進事業

9月18日/名古屋（日本）

「秋のフェアトレードタウンまつり」に参加しました



「秋のフェアトレードタウンまつり」にオンラインで参加しました。フェアトレードに関わる団体や学校の活動紹介や、ディスカッションの様子が、YouTubeでライブ配信されました。「朝食からでもフェアトレード生活は始められる」等の呼びかけもあり、身近なことからできる国際協力として、アイキャンも引き続きフェアトレード事業を推進していきます。

ジブチ事業

9月23日/マルカジ（ジブチ）

保護者が難民キャンプでの課題について話し合いました



イエメン難民が多く暮らすマルカジ難民キャンプで、9名の保護者が、難民キャンプで子どもが直面している課題について考え、意見を出し合いました。課題として、青少年による合法薬物（カートと呼ばれる植物）の飲食や喫煙問題が挙げられ、「改善するには、10歳から25歳の子どもたちや青年が意欲的に取り組める活動が必要だ」等の意見が出ました。

能力強化事業（国際理解教育）

9月/マニラ近郊（フィリピン）

TULAYプロジェクトの事前学習を行いました



フィリピンと日本の子どもたちが交流するTULAYプロジェクトの一環として、10月にオンライン交流会を予定しています。（TULAYはタガログで「橋」）そのための事前学習として、フィリピンの路上の子どもたちがSDGsについて学びました。参加者からは「ごみを道路に捨てずに分別することで、SDGsの目標達成に繋がると分かった」等の感想が聞かれました。